

授業科目名： 教科（社会）	教員の免許状取得のため の 必修科目（選択科目）	単位数： 2単位	担当教員名：南 <sup>みなみ</sup> 哲朗 <sup>てつろう</sup> 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）	小学校教諭として勤務経験を持つ教員が、社会科における指導内容や指導方法について指導する。		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 「社会」		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>◎ 社会科という教科の誕生の背景や経緯を理解するとともに、その後の変遷について、学習指導要領の改訂ごとの具体的な特色をもとにその概要をとらえる。</p> <p>◎教科の誕生および変遷の経緯、PISA等学力調査の結果、海外の教育事情（主に社会科に類する教育）との比較等をもとに、我が国の社会科教育の特徴および社会科授業の基本などをとらえる。</p> <p>◎ 学習指導要領に示された目標および内容を把握するとともに、社会科授業で重要となる教材の意味を理解し、自分の地域にある社会的事象を教材化できるようになる。また、「主体的・対話的で深い学び」と社会科における「問題解決的学習」との関連について理解する。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>○ 社会科という教科が誕生した背景や経緯を調べ理解するとともに、学習指導要領の改訂ごとの特色を調べることを通して社会科の変遷をとらえる。</p> <p>○教科の誕生および変遷の経緯、PISA等学力調査の結果、海外の教育事情（主に社会科に類する教育）との比較等をもとに、我が国の社会科教育の特徴および社会科授業の基本などをとらえる。</p> <p>○ 学習指導要領に示された目標や内容を理解するとともに教材の大切さを理解し、地域の社会的事象を教材化する知見やスキルを習得する。その際、情報通信技術の活用もあり方も併せて学ぶ。また、「主体的・対話的で深い学び」と社会科における「問題解決的学習」との関連について理解する。</p> <p>※ 上記の○3つを修得するために、教科書（学習指導要領解説）以外にも、各自が見つけた関連書籍およびインターネット情報等、様々な事実や資料を参照しながら学修を進める。スクーリングでは班討</p>			

議などアクティブな学びを可能な限り取り入れる。

#### 授業計画

- 第1回：オリエンテーション。学校教育および社会科教育の意味と果たす役割をとらえる。
- 第2回：学校教育において子供が社会科を学ぶことの意味と必要性について理解する。
- 第3回：社会科教育および学校現場での社会科授業の現状を学び、その課題と展望を考える。
- 第4回：学習指導要領の意義、および平成29年告示の現学習指導要領の特色やその構成を理解する。
- 第5回：学習指導要領における社会科の目標や内容（各学年）の読み取り方を理解する。
- 第6回：教科としての社会科の誕生について、その経緯や初期社会科の頃の状況をとらえる。
- 第7回：学習指導要領の改訂時の特色に即して、社会科教育の変遷についてとらえる。
- 第8回：社会科における「見方・考え方」、「思考・判断・表現」等を具体的に理解する。
- 第9回：社会科学習で培う資質・能力について、PISAなど様々な学力調査等の状況と併せてとらえる。
- 第10回：フィンランドをはじめとする海外の教育事情や社会科に類する教育の様子をとらえる。
- 第11回：社会的事象を教材化する方法、および1時間(45分)の授業の組み立て方について理解する。
- 第12回：地域の教材探しや教材開発等の活動を通して、教材化する方法をとらえる。
- 第13回：地域素材の教材化、資料作成および提示に求められる情報通信技術の活用のあり方を学ぶ。
- 第14回：アクティブラーニングを中心とする地域素材の教材化を通して、相互に発表・報告し合う。
- 第15回：「主体的・対話的で深い学び」と社会科における「問題解決的学習」との関連をとらえる。

定期試験： 科目修得試験（R試験）を実施する。

#### スクーリングでの学修内容

スクーリングでは第1回～15回をふまえ、アクティブラーニングの手法を用いて進める。

#### 教科書

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』

#### 参考文献

- 社会科の誕生や変遷の経緯、教材、教材化、地域教材等に関する書籍およびインターネットによる情報等
- 海外の教育事情、主として社会科に類する教育に関する書籍およびインターネットによる情報等
- スクーリング資料

#### 学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。スクーリングにおいては個人の発表などアクティブな学びを可能な限り多く設ける。